

クラブ関西 2017 年度総会報告

2月9日(木)、朝から雪の舞う日となった。あいにくの天候が、皆様の出足を鈍らせるのではと案じられたが、11時までには全員(23名)集合。

11時05分、寺川会員の司会で第1部開会。向野代表の挨拶の後、本部喜田代表より祝辞を頂戴する。

谷口会員を議長に選出し議事が始まる。古西会員の平成28年度活動報告、羽場会員の平成28年度会計報告、出雲会員の監査報告があり、3議案共に全員の拍手で承認。続いて喜多会員より平成29年度活動予定案、羽場会員より平成29年度予算案の提案があり、全会の拍手で承認。最後に向野代表より、前年度より継続する役員を紹介があり、全員正面に並び拍手で承認される。

議事終了後、会場正面に並び記念撮影。



12時20分、暮部恵子会員の司会により第2部開会。会食に先立って、昨年奈良県ビューティフルシニアに選ばれた岩井会員の発声で乾杯。その後は食事を楽しみながら歓談。

13時05分、予定より少し遅れて、昨年度の活動の様子を映像で紹介。お花見会、納涼バスツアーの映像に共感の声。歓声も上がったりする。

13時30分、細川様の飛び入り。窓外に舞う雪を背景に舞われる日本舞踊を鑑賞。



続いて「一口メッセージ」。向野代表の「全員が参加できる会にしたい」という願いの表れ。受付で各自が選んだカードに書かれてある質問に答えるようにして話をする。司会の暮部会員の巧みな進行によって大いに盛り上がる。一人一人の話しに、大きな拍手、爆笑の渦。会場全体が一つになったように思われた。

次はビンゴゲーム。ゲームを盛り上げようとたくさんの景品が用意されていた。今年還暦にちなんで赤いチャンチャンコの小橋会員、酉年にちなんで鳥の被り物を付けた竹原会員の進行でゲームが



始まる。ビンゴになった人は、景品の中からお気に入りの品物を選ぶ。全員がビンゴになるまで続く。各々お気に入りを手にして終了。(14:45)

その後の若干の時間でオークション。ジョニーウオーカー黒ラベル、編み上げ手提げバッグ、革製バッグ、ベルギー産テーブルクロスなど次々に落札される(14:55)。



最後に、2月4日に95歳になられた楠田会員の挨拶で締めくくる。(喜多誠順記)

代表挨拶 ～新年度へ向けて～

クラブ・関西代表 向野幾世

今年は、当会15周年という節目の年です。新年早々、奈良にはめずらしい雪の日となりました。「雪ニモ 冬ノサムサニモ マケズ」に皆様と新年会をはじめられます。今年はその上「元気に百歳」クラブにとって、とても勇気づけられることがありました。1月10日の新聞に「高齢者は75歳以上」という提言がありました。日本老年学会の発表によると、医療の進歩や生活環境がよくなったことで10年前にくらべ、私たちの身体も知能も5~10歳若がえっているというのです。この提言はうれしいでした。何がうれしいかというと、老人ということばが身の上に冠されるのが10年先に延ばされたこと。そのことにより統計上では、65歳以上が高齢者の時には人口の27%、つまり3人に1人が老人ですが、75歳以上になると13%になります。

数字だけではなく意識も変わります。「支える側」「支えられる側」という表現にすると、提言の言うところは、75歳まではまだまだ社会参加の年代であり、仕事やボランティアという「社会の支え手」だという捉え方です。これで社会全体の意識も明るくなりますし、高齢者の私も今一度背筋をピンと張りたくります。

私事ですが、2年前から3世代2世帯の暮らしです。2歳と4歳の孫がいますが、はじめ「ダッコ」していた子がやがて階段をヨイショヨイショと上り下りできるようになり、今や「ヨイショ」のかけ声は、祖母の私にむかっての励ましの声になりました。自分では若いと思っていましたが「古い」の宣告は2歳の孫からでした。

身体の「古い」は自覚しながらも、せめて気持ちだけは若くいたいものです。時に疲れやケガで病になる時も、他人への優しい思いやりのできる身になったとうけとめたいものです。この会を「優しさにあふれる会」として今後とも活動していきましょう。

本日は東京から、喜田祐三代表を迎え、なごやかな新年総会になりますよう祈ります